

“エクジスU”組立施工マニュアル

- 新日軽の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
- 正しい施工をしていただくため当説明書をお読みください。
- 積雪地方でのご使用は避けてください。
- 強風時には補助柱をご使用ください。
- 埋設物（ガス管・水道管）の有無を確認の上、柱位置を設定してください。
- サイドパネルをお取付けいただく場合は、サイドパネル用柱の梱包内取付説明書を先にご覧ください。

■ 工事店様へのお願い

新日軽のアルミ製品は、JISの表面処理規定を、十分クリアした製品をお届けしていますが、取扱いによっては異状腐食をおこし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点を注意してください。

- (1) モルタル用に海砂を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
- (1) モルタルやコンクリートの抽出液が工事中にアルミ製品の表面を流れないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になります。
- (3) モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその仕様を避けていただくか、

塩化カルシウムや塩素系の化合物・珪酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。


- (4) 施工時にアルミ製品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
 - (5) アルミ製品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
 - (6) 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。
- みだりに改造等の仕様変更は避けてください。
 - 施工終了後、説明書は施工様へお渡しください。

■ 施工上の注意




- 商品の施工については必ず取付説明書に従ってください。また、施工完了後に説明書を施工様にお渡しください。
- カーポートには一般地域用や積雪地用などがあります。設置する地域の気象条件に合わせて、適応したものをご使用ください。
- 屋根の雪などが落下する恐れのある場所、または強風が屋根を吹き上げる恐れのある場所への設置はしないでください。
- カーポートを傾斜地に設置する場合は、低い場所の柱の埋め込み深さを確保してください。
- シャッターボックスや庇の下には設置しないでください。離して設置していただくか、逆側に水勾配をつけるようにしてください。

■ 安全にお使いいただくために必ずお守りください。

お願いしたいこと…この説明書に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

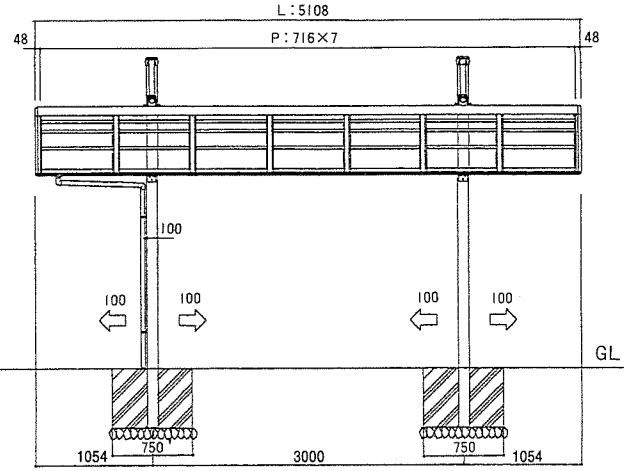
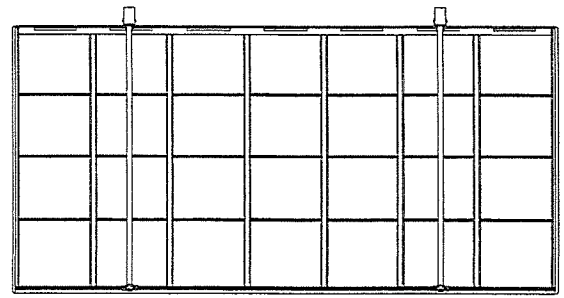
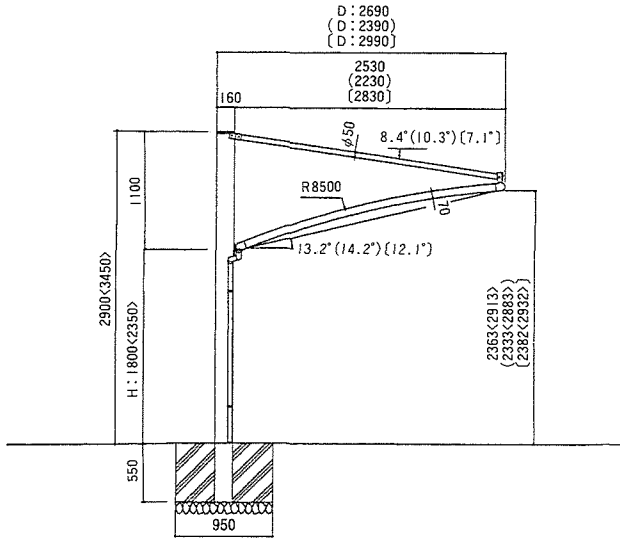
絵表示	意味
 注意	この絵表示を無視して、取扱いを誤ると使用者が損害を負う危険や物的損害の発生が予想されることを表しています。

注意事項……………

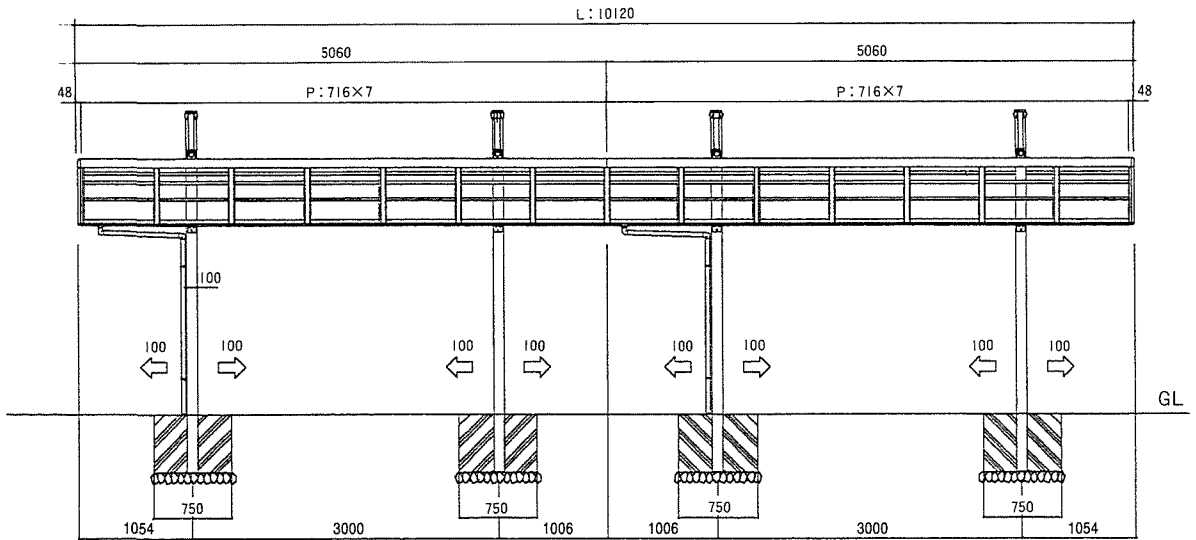
-  **注意** ●積雪が20cmを越える前に雪降ろしをしてください。屋根が雪の重さでつぶれ落ちる危険があります。
-  **注意** ●強風時、片側支持式カーポート、自転車置場をご使用されている場合は、補助柱（別売）を付けてください。
 - 当製品は地上設置高さ5m以下（1階設置）、風速30m/秒に耐える仕様となっています。常時風当たりの強い場所（崖縁等）、又は軟弱地盤での設置は避けてください。
-  **注意** ●当製品は簡易型車庫、自転車置場、渡り廊下用です。物置き、遊び場、或いは住居の一部等への転用を目的として、みだりに改造、変更をしないでください。

■ エクジスU姿図

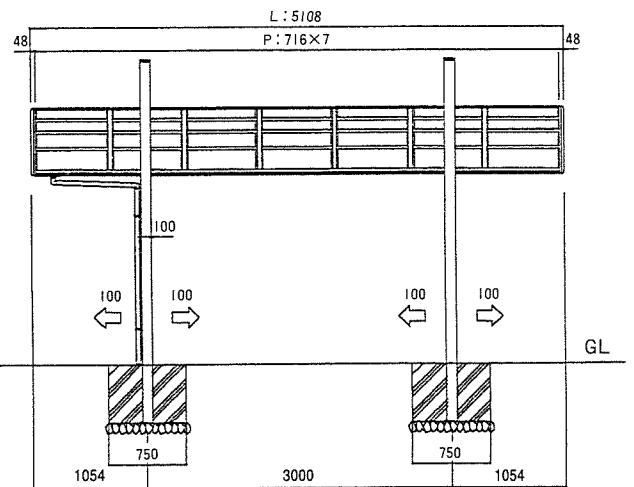
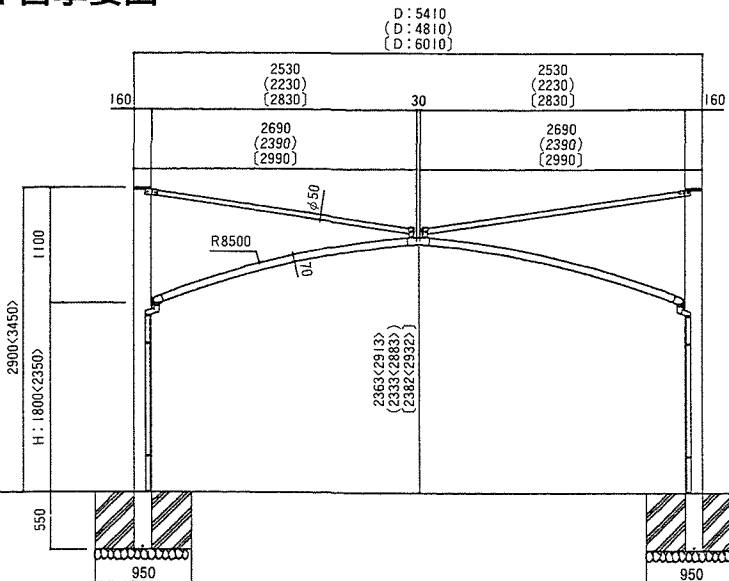
- 本図は D : 27 タイプを示す。
- () 内寸法は D : 24, [] 内寸法は D : 30 を示す。
- < > 内寸法は長柱使用時の寸法を示す。
- ⇄ 印は柱移動範囲を示す。



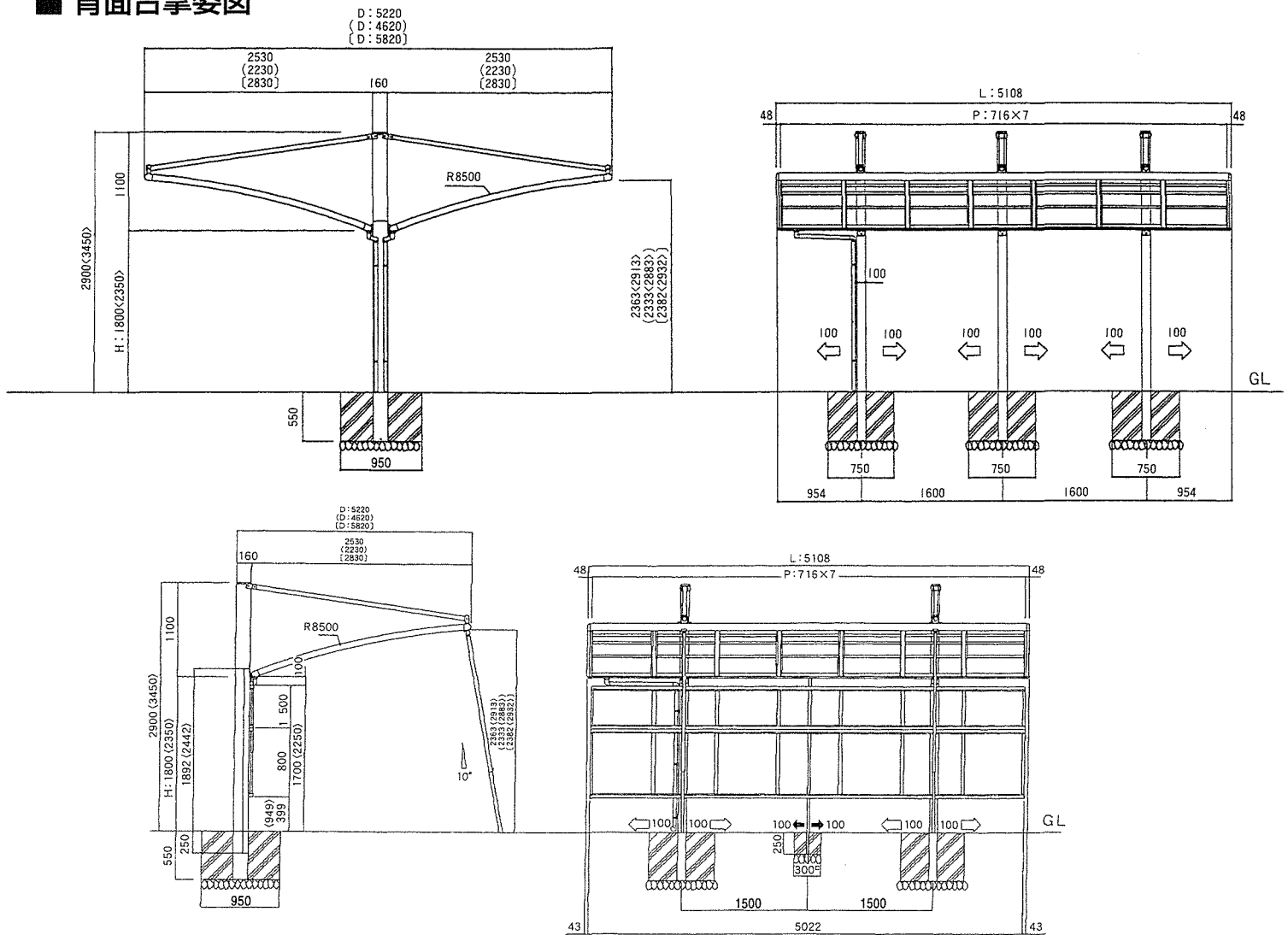
■ 連棟姿図



■ 合掌姿図



■ 背面合掌姿図



■ 規格・拾い出し表

製品名称	単 体			連 棟			合 掌			背 面 合 掌			梱包内容
	L51 D 24	L51 D 27	L51 D 30	L102 D 24	L102 D 27	L102 D 30	L51 D 48	L51 D 54	L51 D 60	L51 D 48	L51 D 54	L51 D 60	
柱	H:18用 H:24用	(1) (2)		(2) (4)			(2) (4)						柱(2) 柱(1)
背面合掌用柱	H:18用 H:24用									(3) (3)			柱(1)
梁セット	D:24用 D:27用 D:30用	1 1 1		1 1 1			2 2 2			2 2 2			梁(6) 中骨(21) 押え材(8)
連棟用梁セット	D:24用 D:27用 D:30用			1 1 1									梁(7) 中骨(21) 押え材(7)
側 枠	D:24用 D:27用 D:30用	1 1 1		1 1 1			2 2 2			2 2 2			側枠(2)
吊り材	(2本入) D:24用 D:27用 D:30用	1 1 1		2 2 2			2 2 2						吊り材(2)
	(3本入) D:24用 D:27用 D:30用									2 2 2			吊り材(3)
	L:51用	1 1 1		2 2 2			2 2 2			2 2 2			前枠(1) 雨桶(1) 後枠(1)
合掌部材	L:51用						1 1 1						合掌部材(1)
背面合掌カバー	L:51用									(1) (1) (1)			背面合掌カバー台(2) 背面合掌カバー台(1) セット部品(1)
標準部品箱		1 1 1		1 1 1			2 2 2			2 2 2			部品一式
連棟部品箱				1 1 1									◇
合掌部品箱							1 1 1						◇
背面合掌部品箱										1 1 1			◇
収納式補助柱	共 通		(1)		(2)						(2)		補助柱(2) セット部品(1)
屋根葺材	D:24用	3枚入	1		2		2			2			(3)
		4枚入	1		2		2			2			(4)
	D:27用	3枚入		1		2		2			2		(3)
		4枚入		1		2		2			2		(4)
	D:30用	3枚入			1		2		2			2	(3)
		4枚入			1		2		2			2	(4)
梱包数合計	柱 H:18	補助柱有	9		17					20	(21)		
		補助柱無	8		15		18			18	(19)		
	柱 H:24	補助柱有	10		19					20	(21)		
		補助柱無	9		17		20			18	(19)		

注) 標準柱使用時には()内を、長柱使用時には○内を拾い出してください。
()内は背面合掌カバー使用時です。()内はオプション部品です。

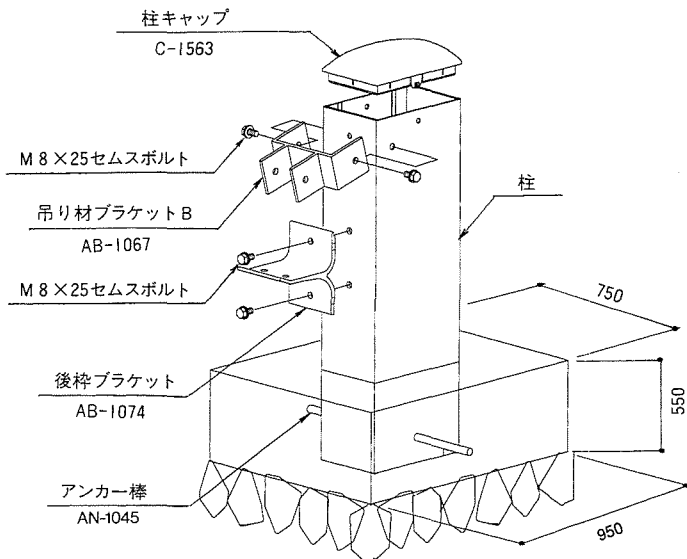
1 基礎の施工・柱部分の取付け

基礎の施工

- ①屋根に水勾配を付けて施工してください。
- ②コンクリートの施工は、骨組み完了後に行なってください。
- ③柱の固定位置は、収まり図を参照してください。
- ④必ずアンカー棒を使用してください。
- ⑤基礎寸法及び埋め込み寸法は、図の寸法以下にならないように施工してください。
- ⑥柱の移動は範囲を守ってください。

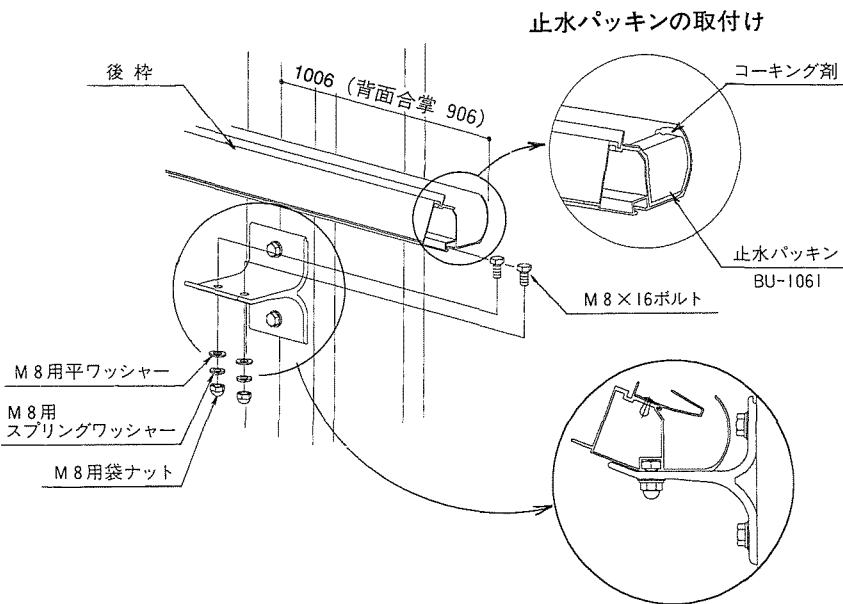
柱部分の取付

- ①柱に後枠ブラケット、吊り材ブラケットをボルトで取付けてください。



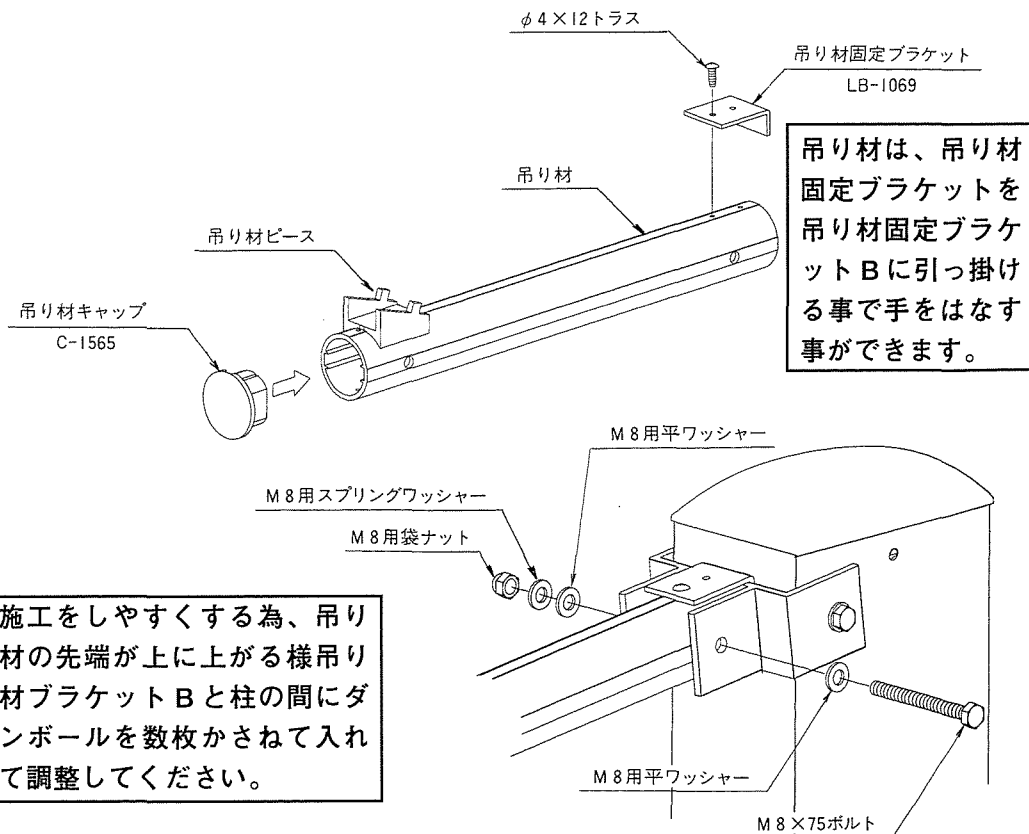
2 後枠の取付け

- ①後枠の端部に止水パッキンを取付け、コーキング剤を十分に施してください。コーキングが不十分ですと雨漏りの原因となりますのでご注意ください。
- ②後枠に落とし口と塞ぎ材を取付けてください。
(**8** 雨樋の組立参照)
- ③後枠に後枠固定用ボルトを通し、後枠ブラケットに固定します。端部から後枠ブラケット芯まで1006mmです。(柱ピッチ 3000 の時) 背面合掌の時は端部から後枠ブラケット芯まで906mmです。(柱ピッチ 1600 の時)



3 吊り材の取付け

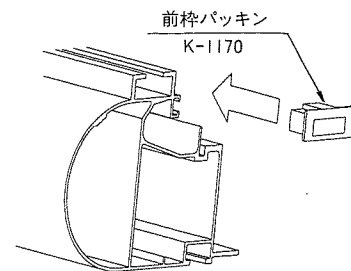
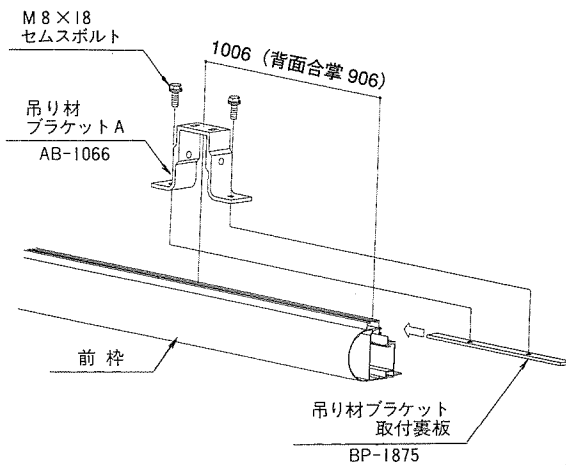
- ①吊り材の吊り材ピースの付いている面に吊り材固定ブラケットを取付けてください。吊り材先端にキャップを取付けてください。
- ②吊り材固定ブラケットを吊り材ブラケット B に引っ掛け、貫通ボルトで止めてください。



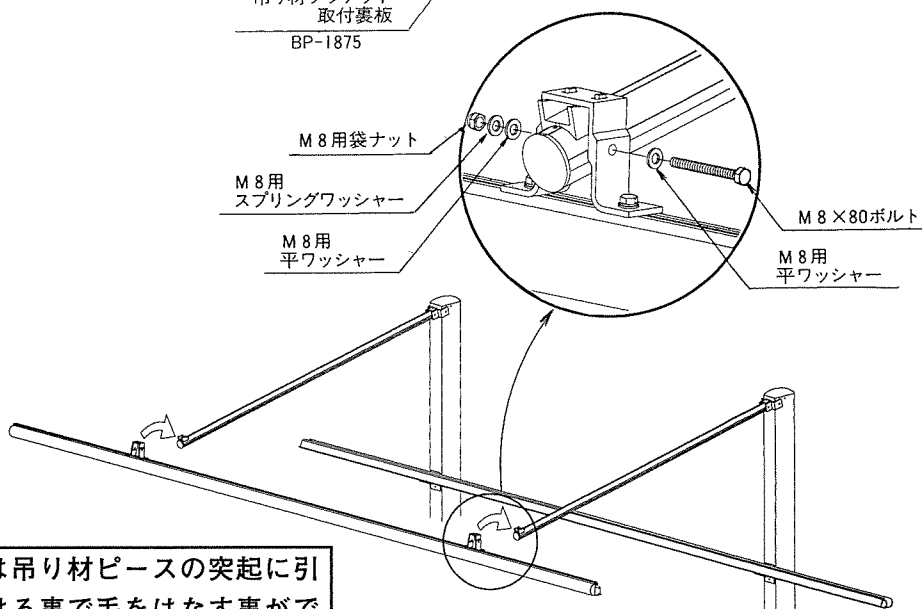
施工をしやすくする為、吊り材の先端が上に上がる様吊り材ブラケット B と柱の間にダンボールを数枚かさねて入れて調整してください。

4 前枠の取付け

- ①前枠に吊り材ブラケットを取付裏板を通し、吊り材ブラケット Aを取付けます。
前枠端部より吊り材ブラケットの芯は1006mmです。
(柱ピッチ 3000 の時)
背面合掌の時は端部から後枠ブラケット芯まで906mmです。
(柱ピッチ 1600 の時)



- ②前枠の両端部に前枠パッキンを取付けてください。
- ③吊り材ブラケット A の穴に吊り材先端の吊り材ピースの突起を引っ掛けます。
- ④吊り材ブラケット A と吊り材を貫通ボルトで固定してください。

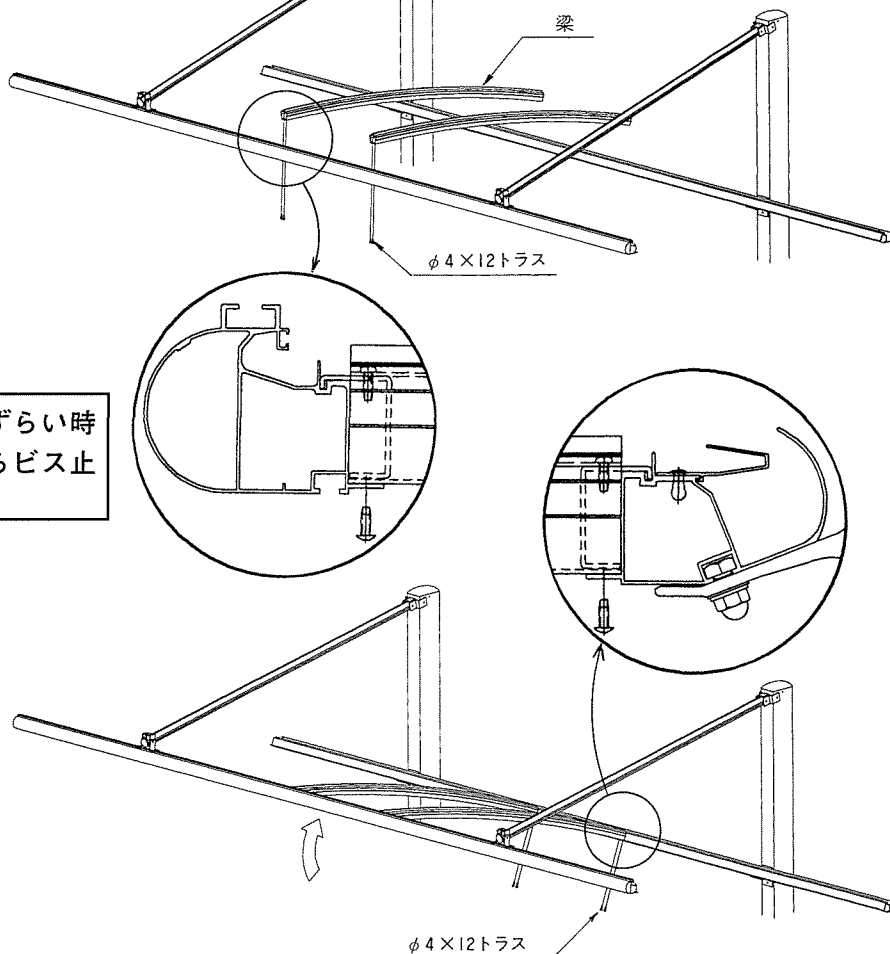


5 梁・側枠・中骨の取付け

※梁・側枠には R・L はありません。

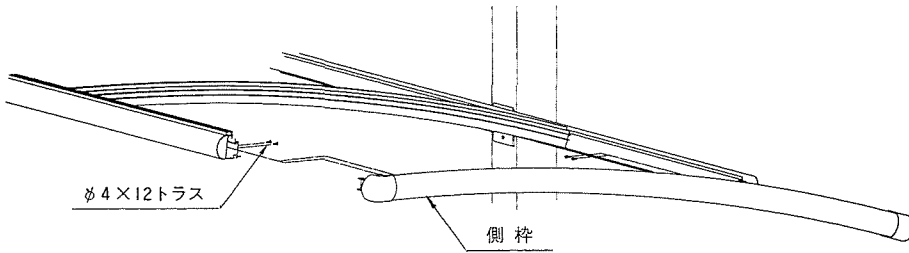
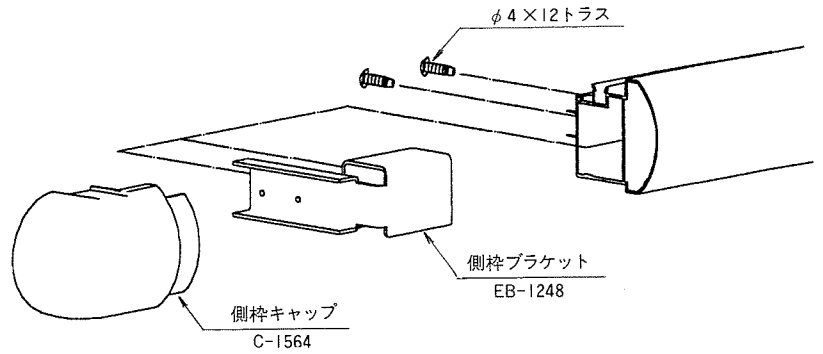
- ①中央の梁 2 本と梁端部の金具を前枠の溝に引っ掛け、下からビス止めしてください。

前枠に梁をビス止めしずらい時は前枠を持ち上げながらビス止めしてください。

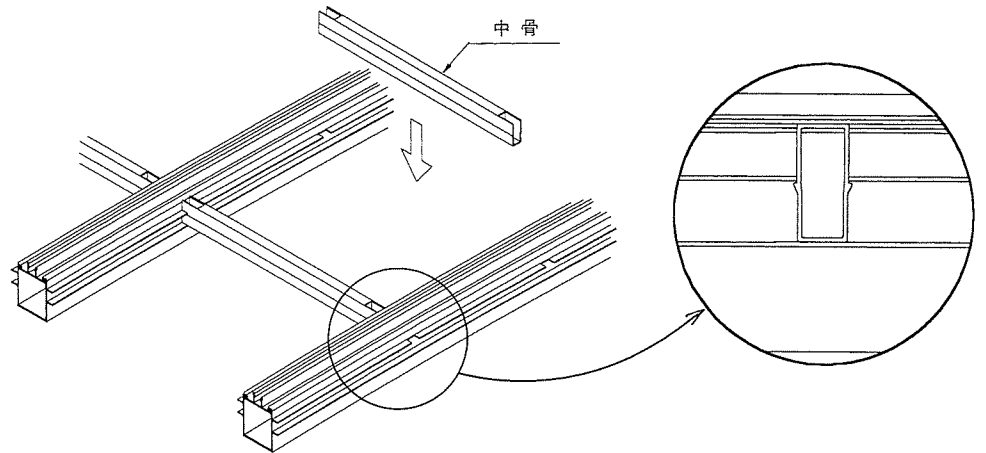


- ②前枠に梁が固定できたら前枠を持ち上げ、梁端部の金具を後枠の溝に引っ掛け下からビス止めしてください。

- ③残りの梁を取付けてください。
- ④側枠に側枠ブラケットをビス止めし、側枠キャップを入れてください。
側枠キャップ、側枠ブラケットにはR・Lがありますのでご注意ください。
☆背面合掌キャップを背面合掌カバーBと一緒に背面合掌カバーAとビス止めしてください。
- ⑤側枠を前後枠に取付け、ビス止めしてください。



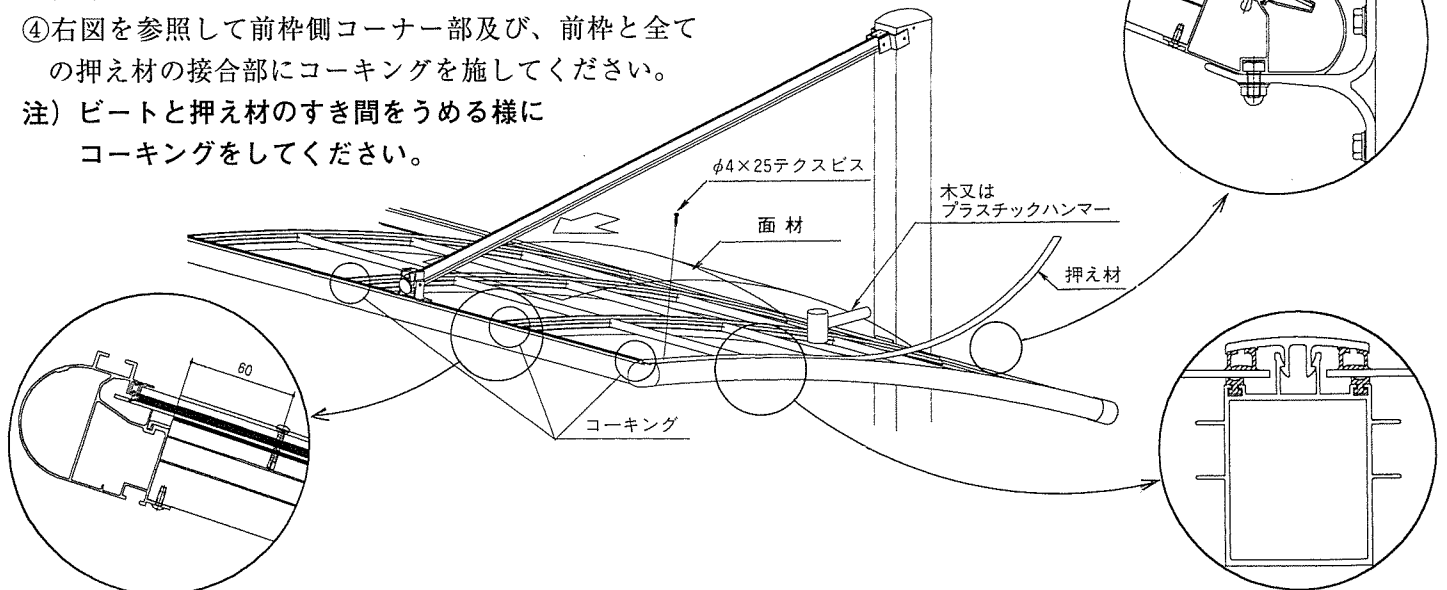
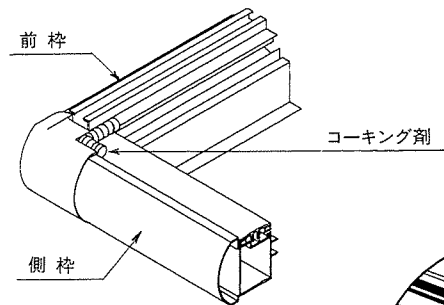
- ⑥中骨の切り込みを上に向けて、中骨が下のフィンに当たるまで入れてください。



※骨組みがすべて終了したらボルト・ビスが本締めされているか、確認してください。

6 面材及び押え材の取付け

- ①面材は先に後枠ピースに突き当たるまで差し込んでから、前枠に入れてください。
- ②押え材を前枠のビートに押し当て、前枠側より木、又はプラスチックハンマーでたたき込んでください。途中、浮いているところがないよう確認しながら行ってください。
- ③各押え材を図の位置にφ4×25テクスビスで前枠にビス止めしてください。
- ④右図を参照して前枠側コーナー部及び、前枠と全ての押え材の接合部にコーキングを施してください。
- 注) ビートと押え材のすき間をうめる様にコーキングをしてください。



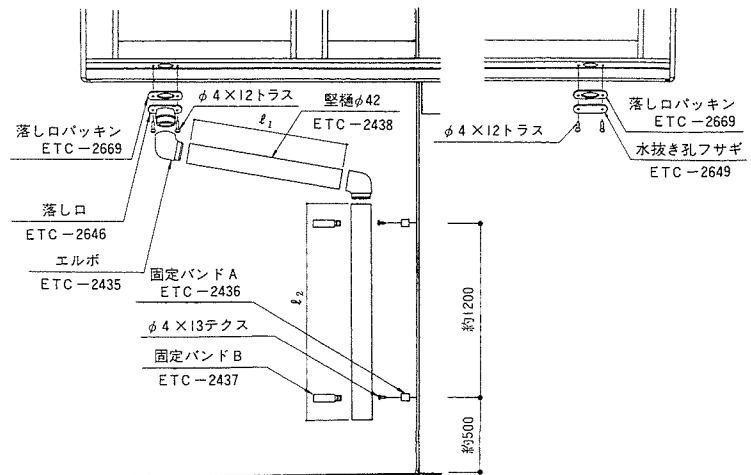
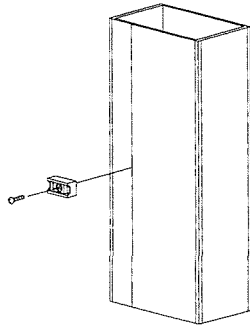
7 雨樋の組立て

- ① 堅樋の長さ (l_1 、 l_2) は現場に合わせて切断してください。
- ② 雨樋は仮組みしてから接着剤を使って組み立ててください。
- ③ 使用しない側の孔には水抜き孔塞ぎを取り付けてください。

注) 横樋 (堅樋の横方向部分) は勾配をつけてください。

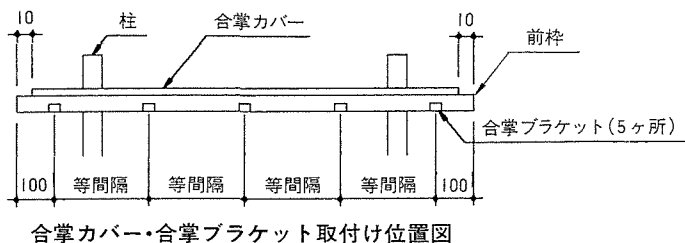
注) 固定バンドは図のように柱の溝にテクスビスで止めてください。

柱標準位置での l_1	柱移動した時の l_1 切断範囲
715	615 ~ 815

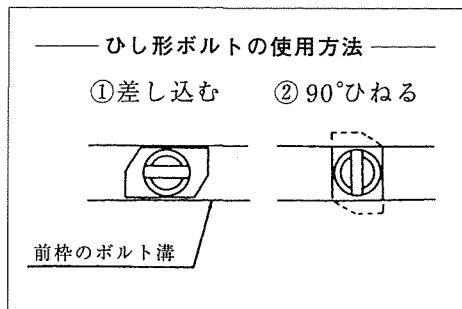
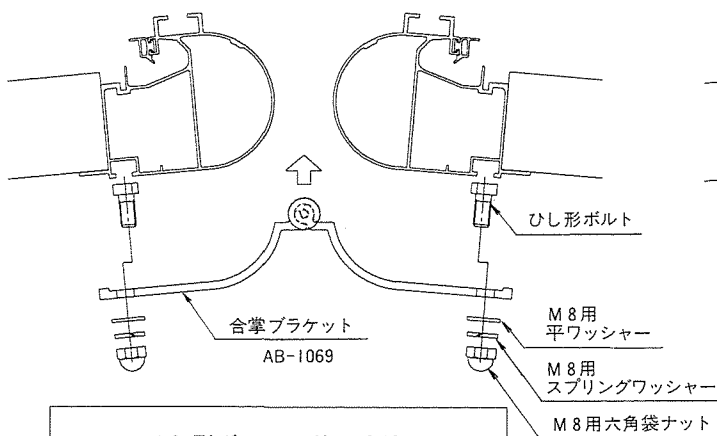


合掌部の組立て

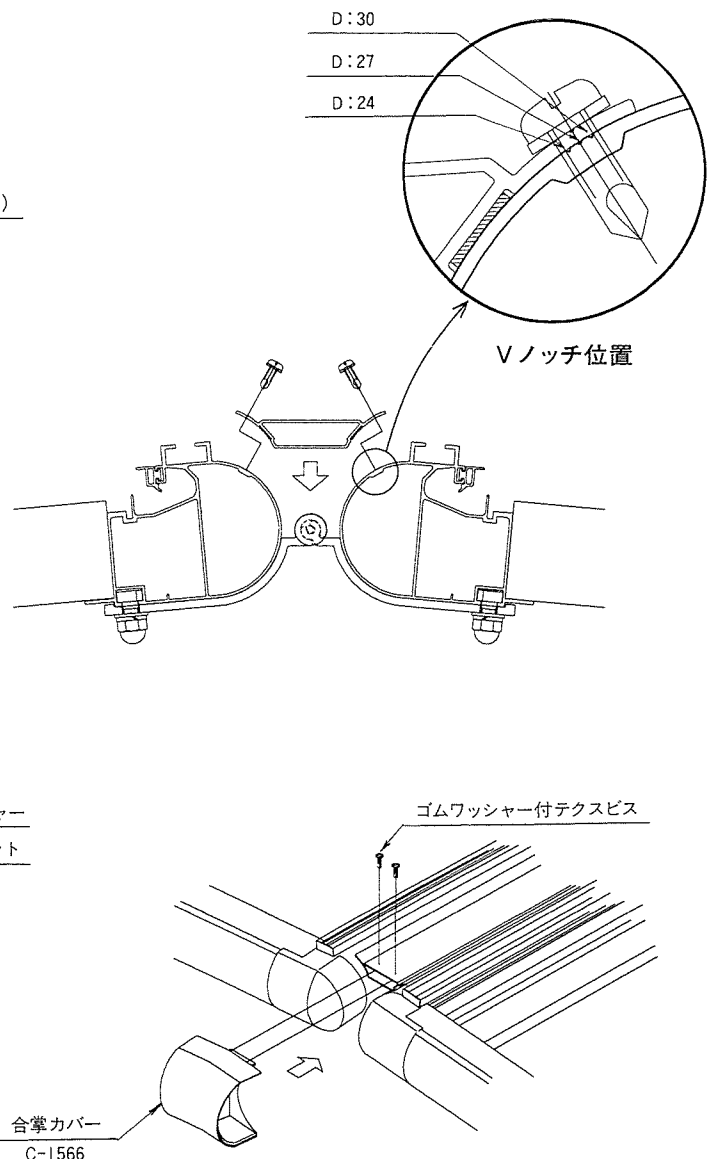
- ① 本体組立の ①~⑤—⑤まで施工してください。
- ② 合掌ブラケット及び合掌部カバーの取付け位置は、下図を参照してください。



- ③ 前枠に菱形ボルトを入れ、合掌ブラケットを取付けてください。



- ④ 前枠の間に合掌部カバーをのせノッチ位置を確認し、ゴムワッシャー付テクスビスで止めてください。

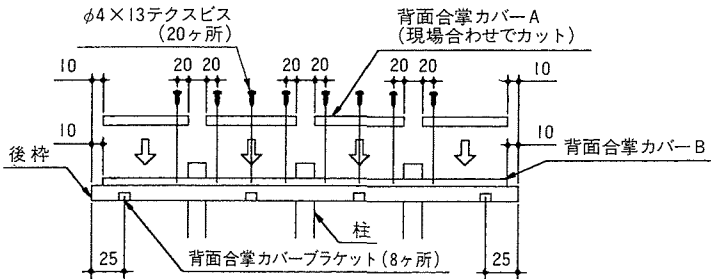


背面合掌の組立て

- ※ ①において吊り材ブラケットBと後枠ブラケットを柱後面にも取付けてください。標準タイプと同様の手順にて取付けを行ってください。柱埋め込み位置は背面合掌の納まり図を参照してください。

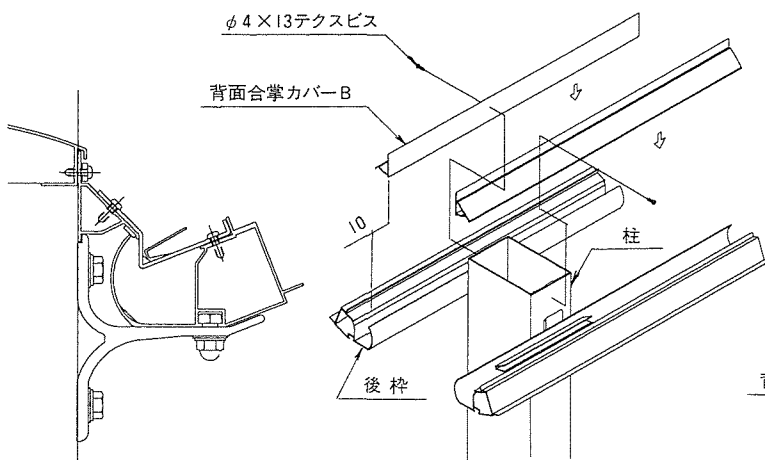
■ 背面合掌カバーの取付け

- ① ①～②まで施工してください。
- ② 背面合掌カバー A、B 及び背面合掌カバーブラケットの取付け位置は、下図を参照してください。背面合掌カバー A は現場合わせでカットしてください。

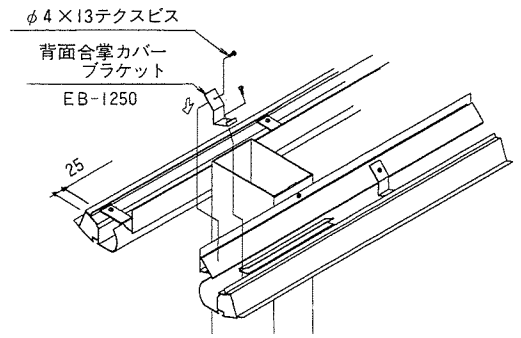


背面合掌カバー・背面合掌カバーブラケット取付け位置図

- ③ 納まり図を参照して、背面合掌カバー B を柱にビス止めしてください。(6ヶ所)

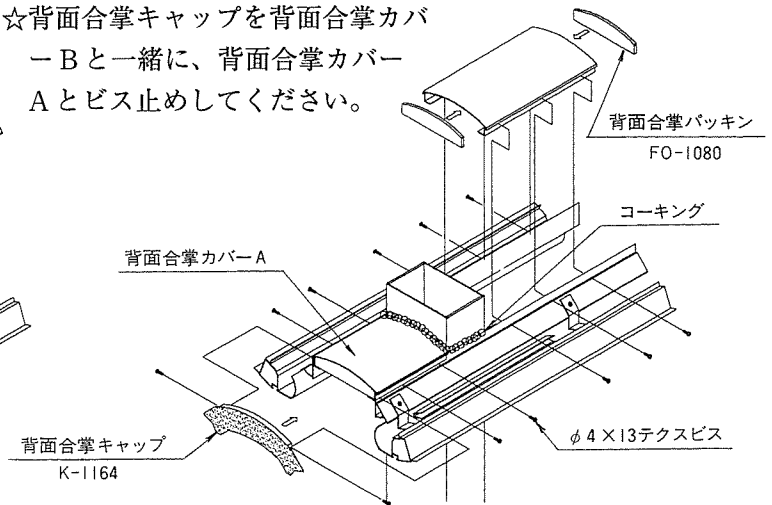


- ④ 背面合掌カバーブラケットを背面合掌カバー B と後枠にビス止めしてください。



- ⑤ カバー A に背面合掌パッキンを挿入し、(のり付け面は柱側) カバー B とテキスビス止めしてください。
- ⑥ パッキンを柱に押しつけた後、柱のまわりにコーキング剤を十分に施してください。

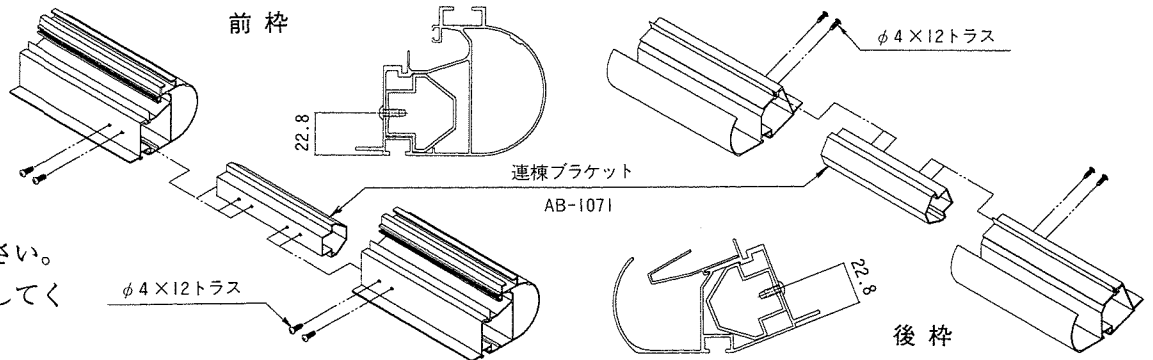
☆背面合掌キャップを背面合掌カバー B と一緒に、背面合掌カバー A とビス止めしてください。



- ⑦ ③よりつづけて施工してください。

■ 連棟部の組立て

- ① 本体組立の～①～⑤—②まで施工してください。
- ② 前後枠の連結部に連棟ブラケットを挿入してビス止めしてください。
- ③ ⑤—③より続けて施工してください。



■ A屋根葺材の補修方法

- ① 押え材を前枠に止めているビスを外してください。
- ② 図のように、後枠側から押え材とたる木の間マイナスドライバーを差し入れ、押え材のツメを押しながら上に持ち上げるようにはぎ取ります。
 - ・押え材が途中で折れることの無いよう注意して行ってください。
 - ・一度折れ曲がったり、形状に異常が見られる場合は、新しい押え材に交換してください。

